

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600197		
法人名	社会福祉法人勝縁福祉会		
事業所名	グループホームひごろもそう		
所在地	山口県防府市大字浜方8番地1		
自己評価作成日	平成26年1月31日	評価結果市町受理日	平成26年7月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念にありますように(利用者様の幸せを祈る)利用者様本位の施設運営を行っている点だと思っております。また、利用者様だけではなく、職員の幸せも大切にされており、働く人たちに寄りまして、昼食時の休憩1時間・有給休暇取得にも配慮しています。地域は私たちが住んでいる町ですので、当然自治会にも入会させていただき、地域の活動状況をお聞きして、何か活動のお手伝いが出来れば積極的に参加をして行きたいと思っております。食事は、朝・昼・夕と三食調理場があり栄養士が吟味した食材を使い、各職場に配達を行い、温かい物は温かく食して頂けることは喜んで頂いていると感じています。また、糖尿病の利用者には糖尿病食にさせていただきます。朝食は普通食でいた方が昼食はお粥にと希望されれば臨機応変に対応しています。多くの利用者様が完食をしているのを見させていただけることは大変嬉しいことです。

毎月のミーティングの中で、一人ひとりの人格の尊重やプライバシーの確保について話し合われ、利用者様をひとりの人として敬意を払って接し、自尊心を傷つけないように、一人ひとりの尊厳を大切にしてお世話になっておられ、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを徹底しております。テレビやラジオを視聴されたり、CDで昔の歌謡曲を聴かれたり、ゲームやカラオケ、散歩、買い物、ドライブ、季節に合わせた貼り絵づくり、プランターでの野菜づくり(水やり、草取り、収穫)、新聞紙でのゴミ箱づくり、テーブル拭き、お茶入れ、配膳、下膳、洗濯物干し、洗濯物たたみなど、利用者一人ひとりの楽しみごとや活躍できる場面をつくられ、喜びや張り合いのある暮らしができるように支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、活き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人の幸せを祈る」その人らしさを大切に、おもてなしの心で、お一人おひとり幸せに関わらせていただく。施設職員も皆様の家族が「幸せ」となる施設を目指している。	法人の理念「人の幸せを祈る」を事業所の理念として事業所内に掲示し、理念を実践に繋げるように努めている。事業所独自の理念の作成までには至っていない。	・地域密着型サービスとしての事業所独自の理念の作成
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新しくできた施設であるため、暗中模索しながら自治会にも加入して、事業所が地域の一員となれるよう努めている。	法人が自治会に加入している。法人の他施設に来訪している幼稚園児や音楽ボランティアと交流している。周辺を散歩している時に会う近所の人と挨拶を交わしている。	・地域との関わり方の検討
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は4階建てであり、敷地の広さも地域地域の避難所にして頂ければとの思いから防府市にお話しをさせて戴いた。11月に防府市が行う集団救急災害訓練の実施を行い、4階からの人命脱出も行われ災害訓練も滞りなく行なわれた。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	施設長・管理者・職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解して、職員全員で自己評価に取り組んでおり、外部評価の結果を拝見し具体的な改善に取り組むたい。	ミーティングの中で評価の意義について説明し、自己評価をするための書類を全職員に配布して記入してもらい、管理者と計画作成担当者とでまとめているが、項目の理解が十分とまでは言えない。自己評価の過程で利用者の居場所づくりや利用者との関わり方について話し合っている。	・項目の理解への取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間6回程度の会議を開催して、地域と共に歩んでいくため、運営推進会議委員の中から地域の方に、第三者委員をお願いし了承していただいた。また運営推進会議の議事録は、玄関横に掲示している。	市職員、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、家族(2名)のメンバーで年6回開催している。利用者の状況、事故報告、事業所の取り組みなどについて報告し、意見交換をしている。市職員からの「利用者が土いじりができるようにしたら」という提案を活かして、プランターに野菜(ナス、トマト、キュウリ)を植え、草取りや水やり、収穫など利用者が活躍できる場面をつくり支援している。	・地域メンバーの拡大 ・運営推進会議の進め方の検討

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	関係法令に基づいた運営を行っており、疑義が生じたときには、防府市関連部署担当者に文書、または電話にて照会を行い、回答をいただいている。運営推進会議議事録も毎回提出を行っている。	市担当課とは運営推進会議時の他、電話や出向いて相談して助言を得たり、情報交換しているなど協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは運営推進会議の他にも連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及びすべての職員が、「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準」における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに全職員で取り組んでいる。	マニュアルがあり、全職員が身体拘束について正しく理解して抑制や拘束をしないケアを実践している。玄関の施錠はしていない。スピーチロックについて気づいたときには、管理者が注意している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2013年度における要介護施設従業者等による高齢者虐待判断件数に関する相談件数は151件であるが、前年度に比べ55件の増加となっている。当施設では入浴時、おむつ交換時等チェックしており、今後とも注意を払い虐待防止の継続に努めていく。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員の中には地域福祉権利擁護事業、成年後見制度に関心をもっている者もあり、あらゆる機会を設けて、県社会福祉協議会及び県介護支援専門員協会等の案内等を伺い、可能な限り職員の参加を呼び掛けている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約をする際は、重要な部分であり利用者及び家族に十分説明を行い、理解と納得をいただいている。現在のところ苦情等はいただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族からの相談、苦情の受付体制は、重要事項説明書に明記し、契約時の説明も行っている。必要であれば該当する委員会に諮り、管理者や職員並びに外部へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明して周知している。運営推進会議時や面会時等に家族から意見や要望を聞いている。意見箱を設置している。運営に反映させるまでの意見は出していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内には栄養委員会・安全対策委員会・教育委員会・行事委員会・感染委員会等設置し、毎月の委員会の開催を行っている。建設的な意見・提案は積極的に採用して反映させている。	月1回のミーティング時や朝、夕の申し送り時に職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で管理者が聞いている。毎月法人である委員会(栄養、安全対策、教育、行事、感染)に担当職員が参加して意見や提案をし、結果を閲覧できるようにして共有している。新人用の業務チェックシートを全職員にも活用したらどうかとかいう職員の意見を活かして、サービス向上につなげている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員に労働時間・給与水準・やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件整備に努めている。また、昼食時間には60分の休憩を取得するよう奨励している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員の資質の向上を目指してその人に合った研修の参加を呼び掛けたりして、研修には積極的に参加している。職員の質の向上にも力を尽くしている。	外部研修は情報を伝え、職員の希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供し、受講後は法人研修の中で復命報告をしている。新人研修は法人が行っている。定期的な内部研修は実施していないが、日常の業務の中でその都度、指導している。	・研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	防府介護支援専門員協会の行う、地域の同業者等の交流会・研修会等には参加を呼び掛けたりしていただき、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等活動を通じてサービスの質を向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様とのコミュニケーションを図り、本人が困っていることの要望をお聞きしながら、安心されるような関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と利用者様の身体状況・心身状況の把握を中心に、ご要望に耳を傾けながらご家族様との関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に管理者が対応し、家族の希望・要望を十分把握し、他のサービス利用も含めた対応に努めて実施している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節に応じた行事を計画して、外気温を感じていただくよう配慮している。平素は体操や、お一人ひとりについてのお話・童謡や歌謡曲がお好きな方はCDをおかけしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議には、利用者様家族様交替にて参加していただき、建設的なご意見も出されて、参考にさせて頂くことも多々ある。共にご利用者様を支えて行ける関係を継続して築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までお付き合いをしてきているお友達も訪ねて来られ、馴染みの人の訪問が途切れないよう努めている。	知人、友人、親族の人の来訪がある他、家族の協力を得て行きつけの美容院の利用や敬老会への参加、買い物、外食、外泊などに出かけ、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共用の空間において、お一人ひとり性格を把握しながら、孤立しないように配慮して、利用者様同士が助け合いながらお過ごしいただけるように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、今までの関係性を大切にしてお電話を申し上げ元気にお過ごしをお聞きしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人ひとりの思いや暮らし方の希望を、共用空間でお話を伺いながら、意向の把握に努めている。なるべく本人の家庭生活と同じような思いで生活していただけるよう理解と把握に努めている。	フェースシートやアセスメントシートを活用したり、日常の関わりの中で職員が気づいたことを経過記録に記録しているが、利用者の思いや意向を十分に把握するまでには至っていない。困難な場合は家族から聞き取りミーティングで話し合っている。	・思いや意向の把握方法の検討

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人ひとりの生活歴の把握が重要であり、どのようにして生活をされてこられたのか、馴染みの暮らし方が出来る様に現状の把握に努めていきたい。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方は、みなさま違いがあるのが当たり前であり、利用者様に合った有する力を見極めて現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成している。	月1回のミーティングの中で、計画作成担当者が本人や家族の意向を参考にして、職員から意見を聞いて介護計画を作成している。期間に応じてモニタリングをし計画の見直しをしている。利用者の状況の変化に応じて計画の見直しをすることとしているが、利用者の思いを活かした介護計画を作成するまでには至っていない。	・利用者の思いを活かした介護計画の作成
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や見直しに生かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援サービスの多機能化に取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源の中一つとして、地域資源を把握し、お一人ひとりが心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来る様に支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、今まで利用されていた本人及びご家族の希望に添った対応を行い、緊急時も合わせて家族に添った対応を行っている。	利用者が入居前に利用していたそれぞれの医療機関をかかりつけ医とし、他科受診も含め家族の協力を得て受診の支援をしている。受診時は家族に利用者の状態について口頭で伝えたり、状態報告書をかかりつけ医に提供している。受診結果について家族から報告を受け、申し送り時や経過記録に記録して共有している。緊急時には、法人の看護職が対応しているなど適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職とは日常生活の中でも常に連絡を取り合い、利用者様の身体状況を含めて相談を行っている。異常があればすぐ来ていただいている。オンコール体制も採っており、利用者本位に万全を期している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が万一入院した場合、職員が交替で病院に行き利用者様の状態把握に努めており、ご家族様とも円滑に物事が推移している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、本人・家族と話し合いを行って、事業所で出来る限りの対応はさせていただいている。なお、医療的な対応はかかりつけ医で往診にも来ていただいている。	重度化や終末期に向けて事業所でできる対応について契約時に口頭で家族に伝えている。実際に重度化した場合は、管理者が家族と医師、関係者と話し合い、医療機関への入院や他施設への移設なども含め、今後の方針を決め共有して取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、何人かの職員は応急手当や初期対応できるが、全ての職員が応急手当、初期対応の訓練を定期的に行っていない。定期的に行うことは必要と思われる。	事故、ヒヤリハット報告書に、その場にいた職員で対応策を話し合って記録し、数日後にカンファレンスを開催して検討し、介護計画に反映させるなどして一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の訓練は実施していない。	・全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災・地震・水害の訓練を行い、地域との協力体制を気付いている。当施設は4階建てであり、高い建物が無いため地域の自治会には、避難する場合は来ていただきたいと連絡を確認をいただいている。	法人全体で消防署の協力を得て、年1回避難訓練を実施している他、市からの依頼で、震度6の地震を想定した集団救急対応訓練を、消防署、消防団(5名)、看護専門学校生徒(40名)、法人と合同で実施している。自治会長が事業所の緊急連絡網に加入している他、法人の施設を避難場所として提供出来る事を伝えているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月に1回の会議を行っており、その中で個人情報などを含めてお一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を検討、学習している。	毎月のミーティングの中で、人格の尊重とプライバシーの確保について常に話し合って学び、利用者をひとりの人格として敬意を払って接し、一人ひとりの尊厳を大切にして関わり、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録は保管し、取扱いに注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様お一人ひとりに話しかけたり、思いや希望を表したり、どうされますかと自己決定できるように働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様中心のペースを大切に第1に尊重しており、その日をどのように過ごされるかを希望に添って支援している。職員側の都合は2の次であるということを念頭に置いている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性も女性の方も朝起きると髪を第一番に梳いて、その人らしいおしゃれが出来るように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・昼・夕と調理室から利用者様へのアンケートなどで意向を取り入れた献立を栄養士が作成、食事をお出ししている。お一人ひとりに合った嚥下機能にも留意している。配膳や下膳も一緒にいき、殆どの方が残すことなく食される。	食事は三食とも法人からの配食を利用し、法人の管理栄養士の献立で栄養バランスの取れた食事を提供している。年1回は利用者からアンケートを取り、食事に関する意向を調査して献立に取り入れたり、利用者と一緒にプランターで栽培をした野菜を収穫して一品料理として加えたりしている。利用者は滑り止めのランチョンマットを配ったり、お茶入れ、テーブル拭き、配膳や下膳などできることを職員と一緒にしている。おやつづくり(ホットケーキ、プリン、焼きそばなど)をしたり、家族との外食など、食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスや食事量を考えると共に、刻みの方、とろみが必要な方においてもお体の状態に合わせた食事形態を常に気を配りながら対応している。水分摂取についても嗜好や飲み込みやすいロミに配慮し支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口の中の汚れや臭いが生じないよう一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンやその人に合った誘導方法を職員が把握しており、お一人ひとりに合った自立に向けた対応をさせて戴いている	生活チェック表を活用して排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導でトイレでの排泄の支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因は様々と思うが、水分の摂取には特に配慮を行い、摂取量を1000ml程度を目安に摂取されるよう心掛けている。食事量の摂取のチェックも当然である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴(清拭を含む)週に3回と定めており、利用者様も喜ばれている。ただし、特浴については本人様の体調等に注意し二人介助での対応をしている。日曜日から月曜日まで毎日休むことなく入浴を行っている。	入浴は毎日14時から16時まで可能で、利用者の希望や体調に合わせて、ゆっくり入浴できるように支援している。入浴中は歌を歌ったり、職員と会話を楽しむなどしてしている。法人の特浴や機械浴が利用できるほか、職員2名体制での支援もしている。入浴したくない人には、時間を変えたり、言葉かけを工夫して入浴できるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様に合った生活習慣を基本として、眠たそうであれば、安心して気持ちよく眠っていただくようしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人ひとりの服薬には、十分配慮を行っており、開設以来誤薬は一度もないので、今後もこのことを維持して行きたい。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人ひとりによって違いはあるが、役割として洗濯物たたみやコップの片付けや新聞織りなど出来ることのお手伝いをお願いしている。その都度お礼を申し上げますと笑顔を見せてくださる。食事の時にお茶を入れていただいたり、プランターの花の世話などご協力頂き感謝している。	テレビ視聴(水戸黄門など)やビデオ視聴(初めてのお使い)、CD(昔の歌謡曲)を聴く、歌を歌う、カラオケ、折り紙、ぬり絵、数字パズル、カルタ、トランプ、ボール遊び、輪投げ、散歩、買い物、ドライブ、季節に合わせた貼り絵づくり、プランターでの野菜づくり(水やり、草取り、収穫)、新聞紙でのゴミ袋づくり、テーブル拭き、滑り止めランチョンマット配り、お茶入れ、配膳、下膳、洗濯物干し、洗濯物たたみなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者の気分転換の支援をしている他、張り合いのある暮らしができるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人一人のその日の希望に添って戸外に出かけているが、季節により頻度は調整している。25年度の夏は戸外の暑さは焼け付くように厳しく、出ることを控えていたこともあります。お正月に天候に恵まれて防府天満宮にお参りを1年の祈願を行った。	散歩、買い物、ドライブ(花見、五重塔、湯田温泉の足湯、初詣など)、家族との外出、外食、買い物など戸外に出かけられよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事を行った時には、季節、内容に応じてお金を使うことはあるので、お一人ひとりの希望を聞いて使えるように支援を行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に本人自ら連絡したい、電話をしたいと申されたら、近くの事務所の電話からかけて差し上げる。お話をして満足されると安心した表情をお見せになる。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新設の施設であり共用の空間は利用者にとって不快さや混乱を招かないように設計・建築されており、掲示物や装飾に関しても配慮している。。生活・季節感はプランターを利用した菜園づくりを取り入れ皆さんと共に居心地良く過ごせるように取り組んでいる。	共有空間は掃出し窓から差し込む自然の光で明るく、窓からは近くの建物や行き交う人を眺めることができる。壁面には季節に合わせた利用者と一緒につくった貼り絵を飾ったり、壁際の棚に季節感のある物を飾り、利用者が季節を感じるできるように工夫してる。テレビ、ソファー、テーブル、椅子を配置して、一人ひとりの居場所づくりをし、温度、湿度、換気、音に配慮して利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間で一緒に過ごされておられるため、気の合った利用者様同士で和やかにお話などが出来るようにソファーやテーブル配置も都度変えている。話題作りに外出時の写真掲示や季節感を感じる折り紙なども作成、飾っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族様と本人の使っておられた慣れた品物をお持ちいただいたり、使いやすい物を購入されたり、本人が居心地良いように過ごされるようにご家族も配慮されている。	ダンス、テレビ、机、椅子、衣装ケース、衣装掛け、ぬいぐるみ、ラジカセ、時計など使い慣れた物や好みのものを持ち込んで、自分の写真や作品を飾って、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は近代様式を取り入れた施設であり、洗面所・風呂など自立した生活が出来るよう工夫されている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームひごろもそう

作成日：平成 26年 7月 3日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	法人の理念を実践に繋げるよう努力はしているが事業所独自の理念が作成までには至っていない。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念の作成。	全職員が各自意見を出し、しっかり話し合い、事業所独自の理念を作成し、全職員が自分達で作らした統一した理念をもとに日常のお世話が実践できるようにする。	
2	2	法人が自治会にも加入し交流を行っているが、地域との関わりについて更に検討が必要。	様々な地域の活動に参加させて頂き、地域の方からもお声を掛けて頂く関係性を少しずつでも確実に作りあげる。	地域の活動を調べるところから始め、より多くの地域の情報を得る。	
3	4	評価項目の理解が十分とまでは言えない。	職員全員が評価項目をきちんと理解した上で自己評価に取り組み、自身の向上とより良い支援を行っていく。	職員全員が自己評価を的確に行えるように、定期的開催する事業所ミーティングの中で理解を深められる時間を作る。また、評価項目ガイド集は職員がいつでも自由に閲覧できるように設置し支援の向上に繋げる。	
4	5	地域メンバーの拡大 運営推進会議の進め方の検討	地域の方と関われる機会を増やし、施設に対して理解を深めて頂く取り組みを積極的に発信する。また、ご意見が頂ける場の雰囲気づくりに努める。	地域行事への参加、施設行事へのご案内の機会を持ち、施設への理解を深めて頂ける機会をより多く作る。また、地域の派出所や消防団員から婦人会や近隣スーパー、コンビニの店員の方など、地域の方が参加しやすい運営推進会議の場を設ける。	
5	14	定期的な内部研修が実施できていない。	研修を充実させ、職員全員の技術の向上を図る。	定期的な研修が行えるよう事業所ミーティングの中に認知症対応を重点とした内容の研修時間を設け、介護技術の向上に取り組む。	
6	24	利用者の思いや意向を十分に把握するまでには至っていない。	各々が知り得た利用者の思いや意向を職員全員が理解、共有し、日々、利用者へ寄り添った支援に活かす努力をする。	関わり方、聞き取り方、取り組み方などのアプローチ方法を探る。また、それをきちんと記録として残し、カンファレンスやケアプランの作成に繋げる。	

7	27	利用者の思いを活かした介護計画の作成までには至っていない。	利用者の思いを活かした介護計画の作成	介護職と計画作成担当者の利用者に対する情報交換を日常的に行うと共に、月に1度のモニタリングを実施する。 また、計画作成担当者は積極的に利用者に関わり思いを把握した計画の作成をし、計画に対しての評価は職員全員で行う。
8	35	一人ひとりの事故防止には取り組んでいるが応急手当や事故に対する初期対応の訓練までは実施出来ていない。	全職員を対象とした応急手当や事故に対する初期対応の定期的な訓練の実施	看護師の協力を得ての研修、講義を定期的実施する。 職員全員が実践に於いて的確な対応が出来るように自身で考え、学ぶという努力をする。
9	36	災害に対する法人全体の取り組みは出来ているが地域との協力体制の構築までには至っていない。	地域との協力体制の構築	災害発生時の流れを具体的に想定し、地域の方への協力体制を立案する事から始める。 地域の方への協力を呼びかけると共に職員自身の動き方も明確にし、災害時の協力、連携体制を作り上げる。

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。